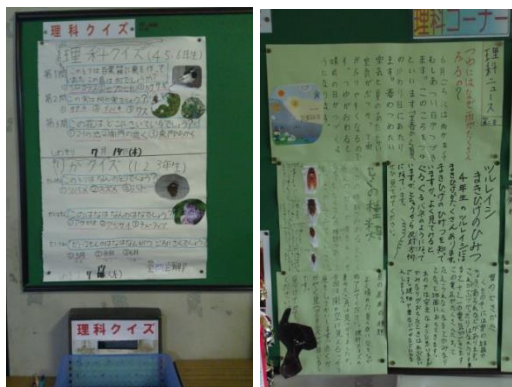


### 3 理学的環境整備

#### (1) わくわく科学ランドの取組

児童が日頃から身近な自然や生き物、科学への関心を高めることができるように、児童昇降口の近くに「わくわく科学ランド」を設けている。ここで飼育している生き物の世話は、2年生が中心となっていてしている。今年も5月に3年生から2年生へ世話の引き継ぎが行われた。生き物の種類に合わせた世話の仕方を3年生が2年生に教えていた。上級生から下級生へとバトンタッチが毎年行われている。

#### 【理科委員会「理科ニュース、理科クイズ」コーナー】



本校は、児童会活動の中に理科委員会を設置している。「理科ニュース、理科クイズ」は、理科委員会の児童が担当し、毎月1回作成している。理科ニュースは、稲田小学校に生息する生き物を、図鑑などで詳しく調べ、紹介記事を書いたり、メダカの産卵など学校で話題になっていることをニュースとして取り上げたりしている。理科クイズは、低・中・高学年用の3種類を用意し、出題している。

#### 【生き物飼育コーナー】



地域の川などに生息している「カメ、ドンコ、タナゴ、ゲンゴロウ、スッポン、ハゼ、ハヤ、カマツカ、ドジョウ」などを飼育している。ここで飼育している生き物は、児童や職員が地域で見つけたものばかりである。夏には「タマムシ」が展示され、初めて見る児童は「きれい」と驚いた様子だった。



休み時間は、多くの児童がここに訪れる。生き物を見ることで心を落ち着かせたり、友達と生き物についての話をしたりすることが多い。一番人気があるのは「カメ」である。児童が呼ぶと近づいてくるほど人懐こいカメであり、児童も触れ合いを楽しみにしている。

#### 【体験コーナー】



体験コーナーには、「阿蘇火山噴出物」「大きな松ぼっくり」「イライラ棒」などがある。イライラ棒は、学校長の手作りで、棒が線にふれると電流が流れ、豆電球が点灯したり「エリーゼのために」という曲がなったりする仕組みになっている。

#### 【生き物パズルコーナー】



サイエンスタイムで体験したことがある「パズル」を随時設置している。簡単なものから複雑なものまであり、児童は生き物の体の模様やつくりを手掛かりに、完成させている。

## (2) 教室設営の工夫

理科学習や生活科での学びの足跡が分かり、体験できるように教室設営を工夫している。生き物を扱う学習の際には、教室や廊下、ベランダ等の身近な所で生き物を育て、日常的に生き物とかがわれるようにしている。虫眼鏡は児童一人一人に配付し、児童が調べてみたいと思ったときにすぐに活用できるようにしている。また、授業で製作したおもちゃの展示をその都度行い、他学年が自由に体験できるようにしている。



階段踊り場の「理科コーナー」

階段の踊り場には、各学年の「理科コーナー」を設置している。観察カードや学習のまとめなどを掲示している。

## (3) 生き物とのかかわり

本校は、周りを豊かな自然に囲まれている。その利点を活かし、様々な生き物とのかかわりを持ち、自然の素晴らしさを実感できるようにしている。

**【農園】**（全学年での取組。ここでは、1年生の取組を紹介する。）

5月の半ば過ぎに、学級の畑にサツマイモの苗を植えた。ちょうどその頃、連休明けに種をまいたアサガオが芽を出し、毎朝水をかけながら成長の様子を観察していた児童にとっては、根がついていないイモ苗が、この先どう育ってサツマイモを実らせるのか、想像がつかない様子だった。



そこで、イモ苗を一株水栽培して、成長の様子を観察していった。「白い根っこが増えてきました」「葉っぱが黄色くなってきました」「畑の苗は伸びているのにあんまり伸びません」など、畑の苗と比べながら観察することができた。また、畑のサツマイモの蔓返しでは、地面に張った芋の蔓を引き上げながら、「白い根っこが、（間を空けて）いっぱいある」「きっと、ここ（根の部分）にイモがなるんだ」「アサガオは蔓が巻きつくけど、サツマイモは巻きつかないで、隣の畝に伸びてゴチャゴチャになっている」などの声が上がっていた。

**【学校田での稲作】**

5年生は、米（もち米）作りに例年取り組んでいる。粃まきでは、黒く焼いた粃殻を粃の上にかぶせた。この作業の意味は「鳥に見つからないようにするため

と、温度を高く保つため」だと知った。また、苗を観察し、籾から発芽している様子を見て、籾（米）が種子であることを再確認し、理科で学習した発芽の条件を整えて作業していることを実感できた。



籾まき、苗取り、田植え、ゴロ押し、塩水まき、かかし作り、稲刈り、脱穀、米の販売など年間を通した活動の中に、理科で学習したことや科学的な考え方が米作り（農業）に活かされていることを学ぶことができた。

### 【ウサギの飼育】

ウサギの世話は、3年生を中心に行っている。土日も含め、毎日、えさやりや水やり、掃除などの世話をしている。家から持参した野菜や学校の農園で育てている野菜をえさとして与えている。今年の春に赤ちゃんが4羽生まれ、多いときには15羽近くのウサギを飼育していた。



ある日、子ウサギそっちのけで親ウサギだけがえさを食べたり、親ウサギが子ウサギの上に乗ったり蹴ったりしている様子を目にした児童から「子ウサギがかわいそうなので、子ウサギが安心してえさを食べられるように親と分けた部屋を作りました。」と報告があった。見に行くと、煉瓦とコンクリートブロックが並べてあった。詳しく尋ねると「えさをやるときだけ、この部屋で食べさせます。ここだと、子ウサギもえさを食べるができます。」ということだった。ウサギの世話を通して、命を大切にしている心情が育っていると実感できた出来事だった。

### 【学級花壇】

学年毎に花壇や農園で栽培活動を行っている。花壇を運動場近くに確保し、毎朝行っているボランティア活動の時間に、水掛や草取りなどの作業を行っている。

花壇で栽培している花の苗は、栽培環境委員会の児童が種から育てている。前年度の花から採取した種をまき、水やりなどの管理を行い、苗まで育てたものである。委員会の児童が心を込めて育てた苗を各学年で引き継ぎ、季節を感じさせる花が咲き続けるようにしている。



この他にも、教室で生き物を飼育したり、一人一鉢で植物を育てたり、近所の牛舎や鶏飼育施設に見学へ行ったりなど様々な生き物にかかわる機会を設けて活動を行っている。活動を通して、生き物の命を大切にしている心で育っている。



## 4 理科的活動

### (1) サイエンスタイム

毎週金曜日の朝活動（15分間）を「サイエンスタイム」として日課の中に位置付けている。「サイエンスタイム」では縦割り班活動を基本とし、異学年で体験活動に取り組みながら児童が自然や科学に対して興味や関心を高めることをねらいとしている。また、昨年度から児童会活動の中に「理科委員会」を設置し、理科委員会主催のサイエンスタイムも実施している。本年度は、より多くの「サイエンスタイム」を理科委員会主催で行うことで、児童の主体的な活動となってきている。

期 日	内 容
平成 27 年 10 月 2 日	  <p><b>「学校の生き物紹介」</b>            学校長からわくわく科学ランドで飼っている生き物についての特徴や習性等について紹介をした。併せてこれまで生きもののお世話をしてくれていた3年生に感謝状を渡し、引き継ぎを行った。</p>
10 月 9 日	 <p><b>「アルソミトラの種」</b>            アルソミトラ（ウリ科の植物）の種が飛行する様子を折り紙で再現して遊んだ。児童は折り紙が風に乗ってゆっくりゆっくり落ちていく様子をととても不思議そうに見ていた。高学年の児童は、植物が子孫を残すために色々と工夫していることに驚いていた。</p>
10 月 16 日	 <p><b>「みんなの木」</b>            5月に縦割り班毎に決めた「みんなの木」がどのように変化しているのかを観察した。葉の色が変化していることや数が少なくなっていること、実がなっていることなどに気付いていた。自分たちの木が変化している様子を細かいところまで気付き、観察カードに記録していた。</p>
10 月 23 日	  <p><b>「秋を見つけよう」</b>            縦割り班で校庭にある秋探しを行った。紅葉している木を見つけたり、ドングリを拾ったりしながら自然の変化に目を向けることができた。</p>
11 月 6 日	<p><b>「秋クイズをつくろう」</b>            先週見つけた秋の様子をもとに、秋クイズづくりを行った。生き物図鑑やインターネットを使って詳しく調べながら、縦割り班毎に楽しいクイズをつくっていた。クイズづくりを行いながら自然の変化に対する関心を高めることができた。</p>
11 月 13 日	<p><b>「秋クイズの発表練習をしよう」</b>            縦割り班毎に秋クイズを出題する練習を行った。全員で役割分担をし、高学年が低学年に優しく教えてあげながら発表の練習をしていた。</p>

11月20日		<p><b>「秋クイズ大会パートⅠ」</b> 縦割り班毎に見つけた秋のクイズ大会（1班～4班）を行った。クイズの内容や写真をプレゼン画面に映しながらの発表会であった。秋の生き物に関する問題が多く出題された。児童はクイズの答えが正解すると大変喜んでいて、発表会後は、答えを確かめるために実際に生き物を見たり、図鑑で調べたりする児童の姿が見られた。</p>
12月4日	<p><b>「秋クイズ大会パートⅡ」</b> 縦割り班毎に見つけた秋のクイズ大会（5班～8班）を行った。パートⅠに引き続いてのクイズ大会ということもあり、児童はとても楽しみにしていた。ドングリや植物の種子に関する問題が出され、児童は一生懸命正解を考えていた。回を重ねるごとに児童の出題する問題にも随分と工夫が見られてきた。</p>	
12月11日		<p><b>「雪の結晶を折り紙で作ろう」</b> 理科委員会が中心となりながら作り方を教えた。児童は小さく折りたたんだ折り紙をカットして開くときれいな模様ができていることに驚いていた。休み時間にも折り方やカットの仕方を工夫して作っている児童の姿があった。</p>
12月18日	<p><b>「1年間の活動を振り返ろう」</b> これまでの児童の活動の様子をスライドショーにまとめ、全員で視聴した。児童は理科の授業やサイエンスタイムの様子、校庭の自然の移り変わりを思い出しながら熱心に見ていた。自分の写真が出てくると少し恥ずかしそうにしながらも、これまでの活動に対する達成感や充実感が表情にあらわれていた。</p>	
平成28年 1月15日	<p><b>「霜と霜柱観察」</b> 校庭にできた霜や霜柱を直接手で触ったり、虫眼鏡やポケット顕微鏡を使って観察したりした。児童は虫眼鏡やポケット顕微鏡の使い方を教え合いながらじっくりと観察していた。1年生にとっては初めての経験であり、霜や霜柱の美しさに感動していた。</p>	
1月29日		<p><b>「かわり絵」</b> 縦割り班で「かわり絵」作りを行った。植物や動物が成長していく姿を表と裏に一瞬で現れる仕掛けである。児童は「かわり絵」を楽しみながら、生き物の成長についての理解や学びを深めることができていた。</p>
2月5日	<p><b>「科学の祭典 in 鹿本について」</b> 毎年1回山鹿市で行われている「科学の祭典 in 鹿本」について担当から紹介した。当日行われる実験を紹介したり、科学の不思議について話をしたりして児童の興味や関心を高めた。2月11日に行われた「科学の祭典 in 鹿本」には、本校の児童もたくさん参加し科学の不思議や楽しさにたくさん触れていた。</p>	

2月26日	<p align="center"><b>「みんなの木」</b></p> <p>5月と10月に観察した「みんなの木」を縦割り班で観察した。児童は5月と10月の様子と見比べながら記録をしていた。5月に観察したときにはたくさんの葉が青々としていたのが、2月には葉が1枚も見られなくなっていた。季節の移り変わりに合わせて、木も変化し続けていることを実感していた。</p> 
3月11日	<p align="center"><b>「理科クイズ大会」</b></p> <p>1年間の締めくくりとして、1単位時間(45分間)を使って全校での「理科クイズ大会」を行った。縦割り班対抗でクイズに挑戦しポイントを競った。会場の雰囲気づくりや音響効果等も工夫しながら本格的なクイズ大会となった。クイズの内容はこれまでの「サイエンスタイム」で学んだことに関する問題や児童の興味や関心があること、最近話題になったことなど様々であり、児童は1問1問に集中して取り組んでいた。正解すると縦割り班全員で喜んでいた。優勝チームにはトロフィーと賞状が贈られた。児童は、クイズ大会を楽しみながら理科や科学に対する興味・関心をさらに高めていた。全校あげてのクイズ大会ということもあり、たいへん盛り上がった大会となった。児童からは、来年度もぜひ行ってほしいという声がたくさん聞かれた。</p> 
5月13日	<p align="center"><b>「紙飛行機大会に向けてパートⅠ」</b></p> <p>「サイエンスタイム」の第1回目と言えば、毎年恒例の「紙飛行機大会」である。理科委員会が司会進行をしながら縦割り班で紙飛行機作りを行った。第1回目ということもあり、理科委員会が紹介したよく飛ぶ紙飛行機を縦割り班毎に全員で作って楽しんだ。上級生が下級生に作り方を優しく教える姿がたくさん見られた。</p> 
5月20日	<p align="center"><b>「紙飛行機大会に向けてパートⅡ」</b></p> <p>前回の紙飛行機作りをベースに、縦割り班で教え合いながら自分の紙飛行機作りを行った。理科委員会が準備した新聞紙や画用紙、折り紙などから自分の使いたい紙を選択し、自分の考えた折り方でよく飛ぶ紙飛行機を制作した。児童は出来上がった紙飛行機を飛ばしながら、羽根の角度や飛ばし方などを工夫していた。</p> 
5月27日	<p align="center"><b>「第1回 紙飛行機大会」</b></p> <p>第1回紙飛行機大会を行った。学年毎に予選会を行い、1番遠くまで飛んだ学年の代表が決勝へと進んだ。決勝では全校の応援を受けながら1年生から6年生までの代表が飛行機の飛んだ距離を競った。結果は1位6年、2位4年、3位5年と上位を高学年が占め、これまでの経験が生かされた結果となった。1位から3位の児童には学校長からメダルが、4位から6位の児童には理科委員長からメダルが渡され、盛り上がった大会となった。</p> 




6月10日	<p style="text-align: center;"><b>「みんなの木」</b></p>  <p>「みんなの木」の実践も3年目となった。本年度も縦割り班で観察を1年間続けていく木を決定していった。上級生はこれまでの経験から、1年間で様々な変化が見られる木について知っており、下級生をリードしながら木の決定を行っていた。また、観察する視点を上級生が下級生に教えたり、細やかな気付きまで大切に記録したりする姿が見られ、積み重ねの結果を感じた。</p>
6月17日	<p style="text-align: center;"><b>「第1回理科パズルに挑戦」</b></p>  <p>理科に関するパズルに縦割り班で挑戦した。パズルは、化石や微生物、地層など様々な種類があり、児童はとても楽しそうに取り組んでいた。縦割り班で協力しながら取り組み、次々と難しいパズルに挑戦していた。中には、完成するタイムを競い合いながら楽しむ姿も見られた。</p>
6月24日	<p style="text-align: center;"><b>「科学展に向けて」</b></p> <p>夏休みを前に、夏の自由研究の進め方を全校一斉に指導した。本校では毎年全員で科学展に取り組んでいることもあり、科学展に対する児童の意識も年々高まってきている。児童の中には早くも今年の研究のテーマを決めたり、準備に取りかかったりしている児童もいるようだった。</p>
9月16日	<p style="text-align: center;"><b>「紙トンボを作ろう」</b></p> <p>縦割り班で紙トンボ作りを行った。ストローに紙を挟み込みセロテープで貼り付けるだけなので、低学年にとっても簡単に取り組むことができた。完成した後は、回す速さや羽の角度などを変えながらより高く飛ばそうと工夫を重ねていた。高学年が低学年に教える姿も見られ、全員で楽しく過ごすことができた。</p> 
9月23日	<p style="text-align: center;"><b>「植物ビンゴ」</b></p>  <p>理科委員会が中心となり校庭にある植物から9つをカードに書き込み植物ビンゴカードを作成した。縦割り班ごとにカードを配布し、9つの植物を見つけビンゴの数を競い合った。これまでの経験もあり、どの班も次々と見つけていた。校庭の周りにある植物に目を向けるよい機会となった。</p>

## (2) 集会活動

本校は、児童が学習したことを発表する場「わくわく集会」、委員会活動の発表をする場「児童集会」を毎月1回実施している。

**【2年生】(2015年9月29日)**



「野菜作り名人」を目指して取り組んできたことを発表した。農業高校生と一緒に植えたピーマンとナスの苗が成長する過程での気付きや心配、収穫の喜び、マルチや支柱の役割を、画像を交えて紹介した。ナスはチクチクした「がく」があることや、同じ野菜でも種類があつて長さや形が違うことなど、初めて知ったことを工夫して伝えることができた。

### 【6年生】(2015年12月15日)



「水溶液の性質」の実験を全校に紹介した。活動は、縦割り班（1班10名程度）で行い、6年生がリーダーとなり実験を進めた。ムラサキキャベツ液に、5種類の水溶液を入れると何色に変化するのか予想した後、下級生がピペットで水溶液を入れた。紫だった液が黄色やピンク色に変化する様子を見て驚き、目を輝かせて観察していた。

### 【5年生】(2016年1月26日)

1年間取り組んできた米作りについて発表した。稲の成長の様子と作業内容について説明をしながら、「粳まきのとき、焼いた粳殻をまくのはどうしてでしょう？」「虫を追い払うためには何をまいたらよいでしょう？」など体験したことをもとに問題を考え、出題することができた。この発表を通して、無農薬での米作りを知らせることができた。



### 【4年生】(2016年6月22日)



緑の少年団で育てている野菜について発表した。ツルレイシの葉や巻きひげの特徴、カボチャやキュウリを育てて気付いたことなどをもとに班ごとにクイズづくりに取り組んだ。最後には、ナスについているアブラムシを退治する方法からも出題した。全校児童はアブラムシが牛乳で退治できるということにとっても驚いていた。



### 【3年生】(2016年7月12日)

校舎の周りで見つけた生き物について、全校のみんなに紹介しようと話し合い、生き生きとクイズづくりに取り組んだ。それぞれの生き物の特徴などについて、一人ずつはきはきと発表することができた。植物の名前や高さ、昆虫のすんでいる場所や生態についての三択クイズには、全児童挙手して参加し、最後の感想もたくさん挙手して伝えてくれた。

### 【理科委員会】(2016年7月15日)



理科委員会は、自分たちで調べた「おもしろ実験」で6つの実験を紹介した。「大きい風船と小さい風船を筒でつなげ、仕切りを外したらどうなるでしょうか？①両方同じ大きさになる②大きい風船がしぼむ③小さい風船がしぼむ」の問題は、児童の答えも分かれた。実際に行ってみると結果は③になり、大歓声が上がった。



## 5 地域人材活用（通年）

本校では例年、地域の方の専門的な知識を活かし、学習活動のサポーターとして協力いただいている。理科や生活科の授業を支援していただいているサイエンスサポーターの方々、稲作の支援をしていただいている稲作アドバイザーの方々、野菜づくりの支援をしてもらっている農業高校生である。

### (1) 理科や生活科でのサイエンスサポーター

理科の専門的な知識をおもちの、地域の退職教員 8 名にサイエンスサポーターとして理科や生活科の授業で支援していただいている。支援内容は、観察における助言や実験などの補助である。特に、本校が、科学が好きな児童を育成するにあたり大切にしている「学習したことを活かしたおもちゃ作り」では、児童全員に作り上げる達成感や喜びを味わわせるためにサイエンスサポーターの積極的な活用をしている。

#### 【2016 年 7 月】

4 年生は、星の観察会で天体のことに詳しいサイエンスサポーターを活用した。黄道十二宮と星座の関係や日本から見える星座のことを教えていただき、星への関心を高めたあとに、野外で星座の観察をした。夏の大三角やさそり座の観察を中心に行った。星の明るさや星の色の違いを実感することができた。今回の「星の観察会」は、4 年生対象で行い、4 年生児童 13 名、職員 5 名、保護者 16 名、兄弟 7 名の参加があった。次回は、「冬の星座観察会」を計画している。



#### 【児童の感想①】

ぼくは、日本で観察できる星座が 64 もあることを初めて知りました。それから、日本から見えない星座が 24 もあることにも驚きました。

僕は、星の観察会で夏の大三角や土星、さそり座のアンタレスなどが見えたのでよかったです。おばあちゃんの家でもきれいに見えるので夏休みにもっと見てみたいです。先生から教えてもらったことでまだ知らないこともあったので、もっと詳しく調べたいと思います。

#### 【児童の感想②】

ぼくは、自分の星座や見える星座、見えない星座などのことをたくさん知れてよかったです。

ベガ、デネブ、アルタイルを結んでできる夏の大三角やさそり座の心臓とも言えるアンタレスを実際に見てとても勉強になりました。火星、土星、流れ星など、とてもきれいな星をたくさん見ることができたのでとてもうれしかったです。

【2015年11月】



1、2年生の生活科の学習では、植物に詳しいサイエンスサポーターに解説をお願いして、毎年地域にある「日の岡山」に秋の自然探しに出かけている。1年生初めて見る秋の植物を興味深く観察・採集し、サイエンスサポーターに次々と質問を投げかけていた。2年生は、「同じ季節に登るのに、どうして昨年とは自然の様子が違うのか」と、昨年度と比べながら自然を観察し疑問に思ったことを尋ねていた。



【児童の感想（気づき）】

去年は、どんぐりがもっとたくさん落ちていたのに、今年はいくつも見つかりませんでした。それと、赤い葉っぱや「むべ」や「あけび」も、去年はたくさんあったのに、今年は見つかりませんでした。「どうしてないのかな。」と思って、サイエンスサポーターの先生に尋ねたら、「台風で木がいっぱい倒れたから、赤い葉が少なかったし、実もなかったんだよ。」と教えてくださいました。

同じ季節でも、山の様子が違うことが分かりました。また来年も登って、「むべ」や「あけび」を見つけて食べたいです。

## (2) 農業高校との交流

2年生は、生活科「めざせ、やさい名人」での野菜づくりを通して「鹿本農業高校」との交流を行っている。1学期は、5月半ばに、高校生が育てたピーマンとナスの苗をいただいて一緒に畑に移植した。

活動の中では、高校生が各グループに入り、一緒に畝にマルチを張ったり、移植した苗が倒れないように支柱を立てたりした。初めて鍬を使った児童もいたが、「鍬は上に振り上げすぎない方がいいよ」「土はマルチが被さっている下から取るといいよ」など、鍬を使ってマルチの端に土をかける作業のコツを教えてもらったり、「苗の根は手でほぐすんだよ」「支柱は、紐で八の字に結ぶんだよ」など苗の植え方や誘引の仕方を教えてもらったりして、どの児童も意欲的に取り組んでいた。

また、高校の先生から「①マルチを張った畝と張らない畝を作って、②支柱を立てたものと立てないものを作って、対照実験をしてみてもどうか」などの助言をいただき、実験を兼ねて栽培活動に取り組んだ。

児童は教えていただいた「野菜を育てるうえで大事なこと・・・毎日畑に行って野菜に足音を聞かせること（水かけ・草取り）」を翌日から毎朝がんばっていた。その甲斐あって、日照りで心配した時期はあったが、ピーマンもナスも鈴生りに実って、児童は大喜びであった。また、対照実験についても、「マルチの方は草があまり生え



ない」「支柱をしていないナスの茎は、実がなると曲がってきた」など、マルチや支柱のよさについて実感していた。

また、本単元の活動については、「わくわく集会」で全校児童に紹介した。

#### 【児童の感想】

鹿本農高のお兄ちゃん達が、ピーマンとナスの苗を持って来てくれました。農高の先生が苗を2本持って、「どっちがピーマンの苗でしょう？」と聞いたけど、どっちがピーマンか分かりませんでした。でも、植えるとき、ピーマンの匂いがしたので分かりました。

### (3) 稲作アドバイザーとのかかわり

5年生の総合的な学習の時間に「安心安全な米づくり」と題して、稲作に取り組んでいる。稲作アドバイザーの皆様には、技術面、管理面での支援をお願いしており、農業に従事されている地域や保護者の方から選出している。もみまきでは、児童は「なぜ黒い焼いたもみ殻をまくのだろうか」と疑問をもった。アドバイザーの方から「一定の温度を保つためと鳥に食べられないようにするためだよ」と教えていただいた。



また、児童は理科で学習した植物の発芽の条件を重ね、「苗床の周りにもみが浸るように水を入れるのは条件を満たすためだったのか」と気付いていった。

稲作は無農薬・無化学肥料で取り組んでいるため、害虫駆除は、塩水をまくことで行っている。児童は「どのように害虫を駆除するのか」と不思議に思っていたが、「新月の10日後、幼虫が育つころに塩水をかけて退治する。この機械で塩水をまくんだよ」と農機に乗せていただいて作業した。アドバイザーの方の知識の高さと理にかなった作業に驚かされた。さらに、理科で学習したことが活かされていることで、児童は興味関心を高めて稲作に取り組む姿が見られた。